

Agile Kata

アジャイルの
カタ

本当の変革を実現するために
アジャイルマインドセット駆動により
科学的思考を定着させる



アジャイルを継続的に改善するための
共通パターン

アジャイルのカタ

アジャイルのカタ (Agile Kata) は、変化を乗りこなし、個人、チーム、組織全体が適応力を養うための実践的で繰り返し可能なパターンです。アジャイルのカタは厳格で規範的なプロセスアプローチではなく、目的のある実験を通じて進歩を導く、科学的思考に基づいています。

アジャイルのカタの中核となるパターンは、課題を定義し、現状を把握し、次の目標を設定し、そこに向かうための実験という4つのステップで構成されています。このリズムを繰り返し続けることで新たな習慣が生まれ、焦点が明確になり、レジリエンスが養われます。

アジャイルのカタは、作業のやり方を規定するのではなく、チームが共に考え、学ぶ方法を改善するのに役立つものです。

実証できる進捗

武道に根差した「カタ(型・形)」とは、熟達に至るまでの構造化された反復実践のことです。アジャイルのカタは、この原則を仕事の現場に適用し、新しい習慣を身につけ、共有学習を促し、本当の進歩を推進する実証済みのやり方を提供するものです。

アジャイルのカタは、フレームワークや万能なソリューションではありません。むしろ、チームが課題に明確に対処し、エビデンスに基づいて意思決定を行い、実験を通じて改善を行うのに役立つ実証済みのパターンなのです。

業界やチーム構成に問わず、アジャイルのカタは再現性のある結果をもたらします。これにより、人々は意図を持って仕事を行い、自信を持って適応し、一歩ずつ考え方を進化させることができます。これは複雑ではなく、よく実践された習慣のシンプルさによる威力です。

深く考える

アジャイルのカタは、スクラムやカンバンのようなプロセスフレームワークではありません。役割やフローを定義するものではなく、課題に直面したときの考え方や行動のパターンを刷新するものです。

フレームワークとは構造を提供するのですが、カタは考え方を構築するものです。一貫した実践を通じて、チームは内省、実験、エビデンスに基づく意思決定の習慣を身につけます。チームは承認や規範的な役割を必要とせず、自己組織化し、より効果的に協力し合い、目的を持って適応させることを学びます。考え方を変えることで、チームはより創造的、意図的になり、共有されたオーナーシップを持って仕事を始めることができます。

カタは、フレームワークに取って代わるものではありません。人々がフレームワークを超えて成長するのを手助けするものです。

書籍



NEW

「アジャイルのカタは単なるツールではない、あらゆるアジャイルの実践者が受け入れるべきマインドセットの転換だ」

Jeff Sutherland Co-Creator of Scrum

誰のためのものか

アジャイルのカタは、デリバリーする成果のみならず、仕事の改善も目指すあらゆる人たちのためのものです。

- よりよい習慣を身につけ、より効果的に問題を解決したいチーム
- 継続的な改善を支援するコーチやファシリテーター
- 変化へと導く、軽量で適応性の高い方法を探しているリーダー
- プロセスの順守から、本当の進化へと前進する準備ができる組織



考案者

Joe Krebs氏は、アジャイルのカタの考案者でありコーチ、トレーナー、講演者、そして作家でもあります。彼の仕事は、世界中のチームに科学的思考と適応性のあるプラクティスをもたらしています。

翻訳者

長沢智治。Agile Kata Pro認定トレーナーであり、サーバントワークス株式会社代表取締役。



「ゴールのレベルまで上ることはできない。
仕組みのレベルまで落ち込むのだ」

James Clear Author of Atomic Habits

→ アジャイルのカタはまさに
その仕組みであり、学び、
応用し、先導しましょう

次のステップへ

アジャイルのカタのパターンを日々実践している学習者、コーチ、リーダーたちによる成長し続けるコミュニティ：

- agilekata.pro (英語公式)
- agilekata.jp (日本語)

にアクセスしてください。



認定研修・試験